

2020年度秋季卒業式学長告辞（2020年9月25日）

学位記を授与された卒業生、修了生の皆さん、広島市立大学を代表しまして、心よりお祝いを申し上げます。また、卒業生、修了生のご家族の皆様、友人の皆様、そして学生達を指導されました先生方にもお祝いと感謝を申し上げます。本日、学部卒業生1名、大学院博士前期課程修了生3名、博士後期課程修了生2名、論文博士学位授与1名を社会に送り出すことができましたことは、大学としても大変、うれしく思います。

学部卒業、大学院修了、そして学位論文提出による博士学位取得は、通常でさえ大変な知的作業と肉体的労力、精神的緊張を伴いますが、本年はそれに加えて、この2月以降の新型コロナウイルス感染拡大に伴い、大学がしばらく原則登校禁止となり、学会等も開催中止になるなど、大変な状況が続きました。そのような状況の中で、皆さんは無事、所定の課程と研究を終えて学位を取得し、本日、卒業、修了の日を無事、迎えられました。皆さんのがんばりに、改めて敬意を表します。

学部を卒業したSさん。Sさんは情報科学の基礎を学び、「学士」の称号を得て、世界に旅立ちます。Sさんが大学で学んだ学問的知識や技能は、情報科学の全体から見ればその一部に過ぎないことは事実でしょう。しかしながら、いかに学べばよいか、いかに考えればよいかは習得したことと思います。大学で学んだことを糧として、自分はこの世界の新参者なのだけれども、戦う覚悟と勇気は誰にも負けない、という気概を持ち、常に学びの気持ちを忘れず、チャレンジを続けるならば、明るい未来は必ず開けます。がんばって下さい。

次に、大学院博士前期課程を修了した皆さん。皆さんは修士号を目指す勉学の過程で、学問とは何か、最先端の研究とは何か、ということは理解したのではないのでしょうか。皆さんがこれからどんな道を歩むにしても、人類の英知の結晶というべき学問を大学院でより深く学んだことは、きっと皆さんの今後

の人生に役立つはずです。これから研究者の道を歩むにしても、あるいは社会人として企業等で働くにしても、大学院で学んだ高度な知識と技能を社会に還元し、社会の発展に貢献することを期待しています。

最後に、本学に学位論文を提出し、論文審査と口頭試問の結果、晴れてこの度、博士号を授与されました T 先生。先生は本学に助教として勤務され、教員として学生の教育や社会貢献に携われながら、博士号取得を目指して研究を続けてこられました。博士号は研究のプロフェッショナルであることの万国共通の証です。これからも学問に対する謙虚さと情熱を忘れず、常に研鑽を積み、自分の学問を武器として、さらなる高みを目指して、研究にそして教育に励んでください。

さて、今、世界は新型コロナウイルス感染症によるパンデミックの真ただ中にあります。そうした中で、大学から社会に旅立つことに不安を感じている人もいるかもしれません。また、新型コロナウイルスの感染拡大により、これまでは当たり前だったことが実は当たり前ではないことに多くの人々が気づき、将来に不安を感じ、動揺も広がっています。そうした人々へのアフターコロナを生き抜くヒントとして、米国の IT 企業、アップル社の創業者であるスティーブ・ジョブズに関連する 2 つの言葉を、私から皆さんに贈りたいと思います。

一つは、” Think different ” です。これは、1997 年のアップル社の広告キャンペーンのキャッチコピーとして世に出たもので、ジョブズが直接、考え出したものではないようですが、ジョブズの哲学が色濃く反映されています。ジョブズは既成概念に囚われることを何よりも嫌い、常に新しいものを求めました。Think different、見方を変えよう。Think different から生まれたものがパーソナルコンピュータの Apple II や Macintosh であり、携帯型音楽プレーヤーの iPod であり、スマートフォンの iPhone でした。いずれも、世界中の人々のライフスタイルさえも変えた革命的な製品でした。

コロナ禍の今だからこそ、発想を変える、物事の見方を変えることが求められていると思います。時代の変革期にチャンスを見つけようとするれば、Think Different が一つの有力な方法だと思います。

もう一つのジョブズの言葉は、“Stay hungry, stay foolish”です。2005年にスタンフォード大学の卒業式の式辞で彼が述べたものです。Hungry であれ、つまり常に飢えを感じろ、とは、現状に満足するな、ということでしょう。Foolish であれ、つまり愚か者であれ、とは、常識に囚われるな、ということで、Think different にも通底する言葉です。現状に満足し、常識に囚われていては、新しい世界は見えてきません。ましてや、未曾有の変革期を迎えようとしているアフターコロナの時代においては、ビフォアコロナの常識は通じない可能性が高いでしょう。

今のコロナ禍はきっと終息するでしょう。しかしながら、世界がアフターコロナにおいてビフォアコロナの時代に戻ることはあり得ず、いま、世界は歴史的な転換点を迎えています。そうした時代を生き抜き、ピンチをチャンスに変えるには、ジョブズのこの2つの言葉はきっと参考になるでしょう。アフターコロナの時代を切り開き、人類の明るい未来を実現するのは、皆さんのような若い人達なのです。

本日、卒業、修了する皆さんは、卒業、修了に至るまでには厳しいこと、つらいこともあったかもしれませんが。さらに、世界は今、コロナ禍にあって、混沌さを増しており、未来も判然とはしません。しかしながら、本学で学んだことに自信と誇りを持って世界に立ち向かえば、道はおのずから開けると私は信じています。世界を舞台にしての皆さんのこれからの活躍を期待します。

最後に、皆さんの将来が希望に満ちた明るいものになることを祈念しまして、学長告辞とします。

本日はご卒業、ご修了、学位取得、まことにめでとうございます。

2020年（令和2年）9月25日

広島市立大学長

若林 真一